番号	著者名	書名	出版年	出版年（文庫化）	出版社	価格	本文ページ数	ISBN	コメント
1-1	ジャレド・ダイアモンド	銃・病原菌・鉄　上	2000		草思社	1900	301	978-4794210050	人類の文明の始まりを地球規模でとらえるという大技をみごとに成功させた記念碑的達成。 大陸がタテに長いか横に長いか、そんな小さな偶然が人類の発展史の根幹を定める！　あざやかな洞察。
1-2	ジャレド・ダイアモンド	銃・病原菌・鉄　下	2000		草思社	1900	318	978-4794210050	―
2-1	ジャレド・ダイアモンド	文明崩壊　上 ー滅亡と存続の命運を分けるもの	2005		草思社	2000	424	978-4794214645	栄えたものは必ず滅ぶ。それぞれの文明の滅びの要因を環境との関わりで広く深くとらえるジャレドの史眼の冴えにうなずきつつ、すべてがレクイエムのように聴こえて、どこか悲しい。 モアイ・ピトケアン・アナサジ・マヤ・グリーンランド……最新の考古学がとらえた滅びの諸相を〈宿命〉と受けとるか〈警鐘〉と受けとるかは、読み手次第。 大著だけれど、1章だけでも、じゅうぶんに分かる。じゅうにぶんに刺激的。
2-2	ジャレド・ダイアモンド	文明崩壊　下 ー滅亡と存続の命運を分けるもの	2005		草思社	2000	357	978-4794214652	―
3	ブライアン・フェイガン	古代文明と気候大変動	2005		河出書房新社	2400	341	978-4309251929	静かに溢れた北アメリカの湖が海流を変え、ヨーロッパに大干魃を起こし、農耕文明の端緒を開く。環境変動のなかで人類の営みをとらえる試み先史編。 原題：The Long Summer
4	ブライアン・フェイガン	歴史を変えた気候大変動	2001		河出書房新社	2400	294	978-4309251547	ほんのわずかの気温変化がヨーロッパを凍えさせ、農民の反乱を、革命の時代を連れてきた。環境変動のなかで人類の営みをとらえる試み歴史時代編。 原題：The Little Ice Age
5	コンラート・シュピンドラー	5000年前の男	1998		文藝春秋	650	375	978-4167309770	1991年アルプスの雪の中から発見された凍結ミイラ。折れた肋骨、毛皮の帽子、小麦の粒に未完成の弓矢。アルプス山中に倒れた彼はどこへ行こうとしていたのか？
6-1	塩野七生	ローマ人の物語 ハンニバル戦記3[上]	1993	2002	新潮文庫	362	140	978-4101181530	カンヌからザマへ。戦術の天才が、ついにその牙を折られる時が来る。敵はスキピオ、「あらゆる彼の行為は完璧な論理的帰結を持っていた」と称された男。
6-2	塩野七生	ローマ人の物語 ハンニバル戦記4[中]	1993	2002	新潮文庫	438	248	978-4101181547	―
6-3	塩野七生	ローマ人の物語 ハンニバル戦記5[下]	1993	2002	新潮文庫	400	193	978-4101181530	―

7	塩野七生	ローマ世界の終焉	2006		新潮社	3000	396	978-4103096245	蛮族に侵食されて大帝国が滅びてゆく。その滅びの運命にどう抗うかで、男の真価が定まるのではないか。軍総司令官スティリコの生涯をいとおしむようにたどる作家のまなざしは、惚れた男へと向けるそれのような。
8	本村凌二	地中海世界と ローマ帝国	2007		講談社	2300	343	978-4062807043	塩野さんが各駅停車なら、こちらは特急。大帝国が勃興してから滅ぶまで、多士済々の登場人物を手際よく出し入れしつつ、帝国滅亡の原因にまで説き及ぶ。
9	竹内康浩	「生き方」の中国史	2005		岩波書店	2500	228	978-4000221504	おとなりだし、ずっと日本の先生だったから、つい分かった気になってしまう中国。 じつは全然違うんだ、と「家」と「官」の二つに焦点をあてて、教えてくれる。 漢字だらけで初めはとっつきにくいかもしれないけれど、著者の語り口は、なかなか楽しげ（ナイーヴな民主主義万歳はちょっと思考が浅すぎると思うけど）。びっくりエピソードの拾い読みをしてゆくだけで、寓話からそれぞれの民族の世界観を照らし出す手法が会得できる。
10	張競	天翔るシンボルたち ー幻想動物の文化誌	2002		農山漁村文化協会	3200	192	978-4540020438	ずんぐりかわいい角端（かくたん）は一角獣。皇帝の陵墓を護ってます。びろんと舌を出してるのは辟邪（へきじゃ）だよ。太陽には三本足の烏が棲み、龍が産んだ九人の子はみんなできそこないさ。 こっそり飼ってみたいユニーク動物が、いっぱい。
11	ミシェル・ パストゥロー	王を殺した豚 王が愛した象	2003		筑摩書房	2400	266	978-4480857743	たとえば蜜蜂はナポレオンが選んだフランスの象徴。なぜなら……動物ごとに織り込まれた歴史の記憶を読み解く。で、一番人気はやっぱり象！
12	ミシェル・ パストゥロー	縞模様の歴史	1993	2004	白水社	900	141	978-4560073742	シマシマは悪魔のしるし。だから囚人服はシマシマ。でも、シマシマは衛生のしるしにもなった。だからパジャマやシーツはシマシマ。
13	アルベール・ ロビダ	絵で見る パリモードの歴史	2007		講談社 学術文庫	1150	332	987-4061598003	直径2メートルのパニエでスカートをふくらませたあとはエスカレートするいっぽう。頭上高々と帆船を編み上げたり、リボンと羽根飾りてんこ盛りのボンネットの貴婦人たち。ちょっと着てみたい……かも。
14	ジョセフ・ギース フランシス・ ギース	中世ヨーロッパの 都市の生活	2006		講談社 学術文庫	1100	315	978-4061597761	トロワ1250年、フランス。都市の原型に滞在してみませんか。チュニック姿の職人に白い被り物の主婦たち、向こうに大聖堂。
15	エリック・ ジェイガー	決闘裁判 世界を変えた法廷 スキャンダル	2007		早川書房	2100	277	978-4152088734	1386年フランス。そんな遠いできごとなのに、決闘場の柵に顔を押しあてて、二人の騎士が槍と斧と剣で殺し合うようすが、まざまざと見えてくる。 ストーリーの焦点に立つのは美しいマルグリット。自分に辱めを加えた狼藉者を絶対に許さない。「沈黙を破れば醜聞とさまざまな危険に襲われる」と承知で、敢然と行動を起こした女性。この時代にあって、自らを貫いた稀有な精神が死闘の砂埃のかなたに、まぶしく輝く。 ジャンヌ・ダルクより、凄いかも。

16	ゲッツ･フォン･ベルリヒンゲン	鉄腕ゲッツ行状記 ーある盗賊騎士の回想録	2008		白水社	2500	177	978-4560026298	ゲッツ･フォン･ベルリンゲン。1480-1562、ドイツ。 いやもうすさまじい。日々これファイティング。槍をぶん回し、鉄炮をぶっ放し、殺し合い。右腕を砲弾で吹っ飛ばされながらも、義手を振り回して、たくましく天寿を全うした荒くれ男が、あっけらかんと語る自慢話の迫力に圧倒されるばかり。当事者のリアリティとは、まさにこのこと。
17	アルフレッド･W･クロスビー	数量化革命	2003		紀伊国屋書店	3360	352	978-4314009508	数を数えるって何？　アラビア数字、時計に地図、遠近法に楽譜……いろんな近代的発明の根っこで起きた〈もののみかた〉大転換をつかまえる。それはまさに〈理系〉なるものが誕生した瞬間なのだ。14世紀初めのヨーロッパ。
18	応地利明	「世界地図」の誕生	2007		日本経済新聞出版社	2400	257	978-4532165833	仏教は逆三角形、キリスト教はTO、中国は四角でイスラムは球……地図の形の話です。中世の地図を4つ取り上げて、緻密に分析しつつそれぞれの世界観へアプローチ。ワールドワイドな視野の広がりと分かりやすく誠実な語り口に引き込まれる。
19	チャールズ C. マン	1491 先コロンブス期アメリカ大陸をめぐる新発見	2007		ＮＨＫ出版	3200	610	978-4140812501	愕然の三部構成　常識を覆して超スリリング 愕然その１　コロンブス以前のアメリカ大陸には1億人もの人びとが暮らしていた　滅ぼしたのは病原菌 愕然その２　南北アメリカ大陸には2万年前から人が住み、ヨーロッパよりも早く文明が栄えていた 愕然その３　原住民たちは自らの手で積極的に環境を改変した　アマゾンの密林も人の手でつくられたもの
20	川北 稔	砂糖の世界史	1996		岩波書店	208	208	978-4005002764	アジアのお茶とカリブの砂糖がイギリスで出会って世界が変わる。砂糖を基軸にコンパクトにまとめて便利だが、みんな白人が悪いのさ、という岩波流善悪史観にやや疑問も沸く。
21	ジャイルズ･ミルトン	奴隷になったイギリス人の物語 -イスラムに囚われた100万人の白人奴隷	2006		アスペクト	2200	394	978-4757212114	奴隷＝黒人なんて思いこんでいませんか。これはイギリス人奴隷のお話。 船ごとイスラムにさらわれて、スルタンの奴隷として虐待され、改宗されられ、壮絶なる艱難辛苦。そんな冒険談として読んでもよいし、スルタンが痰を吐くと、それを地面に落としてはならないため、周囲の男たちがハンカチで受けとめる、ちょっとユーモラスな光景を珍しがってもよい。 それにしても、17-8世紀のヨーロッパでは、これがあたりまえの事態だったとは。なるほどヨーロッパにとって、イスラムという敵は深く深く骨肉に食い込んだ敵なのだと納得。
22	安達正勝	死刑執行人サンソン	2003		集英社	700	237	978-4087202212	仕事として人を殺す。その不条理をプロフェッショナルとしての誇りを以て乗り越えていった、たくましき家系の男たちの肖像が、じつにいきいきと提供され、ギロチン華やかなフランス革命の奔騰のまっただなかに首根っ子ごと巻き込まれる。

23	安達正勝	フランス反骨奇人列伝	2006		集英社新書	735	205	978-4087203370	昨年のサンソン人気にあやかってセレクト。革命期を生きた4名のいずれ劣らぬ気骨びと。太陽王ルイに、あるいはナポレオンに抗して敢然と己を枉げなかったところが、惚れ惚れと潔い。 とりわけ死刑執行人「大サンソン」の孫の懊悩のくだりは、しっかり作者の共感が乗っていて、ぐっと胸に迫ります。
24	井野瀬久美恵	大英帝国という経験	2007		講談社	2300	362	978-4062807166	植民地アメリカを喪って大打撃のはずなのに、そのあと世界制覇を成し遂げ得た奇跡。うねりの波間に浮かぶアイルランド貴族のフローラやアフリカ奴隷のサラ、そしてもちろんクイーン・ヴィクトリア。大英帝国万華鏡。
25	トニー・ロビンソン	「最悪」の仕事の歴史	2007		原書房	2800	310	978-4562041190	よくも集めたこれだけの3K仕事。ヴァイオリンの弦つくりが、そんなヨゴレ仕事だったなんて。 パラパラめくって気づくことは二つ。サイアク・コレクションで、いちばん多いのが職人さん。なるほど、ものつくりって命懸けだったんだ。次に多いのが都市の清掃関係。なるほど、密集都市の衛生を維持してゆくのは、ほんとたいへんだったんだ。 このなかからどれか一つ選べと言われたら、どうします？
26	スティーヴン・ジョンソン	感染地図 ー歴史を変えた未知の病原体	2007		河出書房新社	2600	261	978-4309252186	1854年、ロンドン、コレラ禍。死神は井戸を伝ってやってきた。 いや、悪いのは空気でしょう、という先入観と科学的精神がいかに戦ったか。 私たちは、つい地図を眺めて「上から目線」でできごとをとらえてしまうけれど、現場を這いずりつつ、地図をつくることから始めた戦いの各シーンがスリリング。 歴史上の1エピソードと片付けず、都市なるものが今後どうなるか、著者はしっかり未来へと視線を向けている。
27	マシュー・スチュワート	1859年の潜水艇 ー天才発明家モントゥリオールの数奇な人生	2005		ソニーマガジンズ	2300	383	978-4789726733	バルセロナ沖につかのま浮いた、うたかたのサブマリン。 この潜水艇で人類に新たな未来を開くのだ！　どんな男が、どんな夢にとりつかれ、どのようにその夢とともに沈んでいったのか。こってり描き込まれた彼の人物像も存在感大だけれど、背景に浮かぶ群像もごつくて、ユニークで、なかなか。 イカリアという国の名前を耳にしたことがおありですか？
28	マーク・ジェンキンズ編	大冒険時代 ー世界が驚異に満ちていたころの50の傑作探検記	2007		早川書房	3600	579	978-4152088413	貪欲な白人たちの足跡が、砂漠を、ジャングルをひたひたと横断してゆく。「今晩15人の死体と一緒に寝たほうが、明日16人目になるよりましだ」(250ページ) なんていう寒さは、まだまだ序の口。イナゴの大群に急襲されてナウシカ気分 (121ページ) 。海賊船を急襲してパイレーツ気分(503ページ) 。 ランダムにページをめくれば、どこでもアドベンチャー。
29	サイモン・ウィンチェスター	博士と狂人 ー世界最高の辞書OEDの誕生秘話	1998	2006	早川書房	740	325	978-4150503062	「第二独房棟の学者」。この言葉に反応したあなたは、ほんとうに世にも稀なる人物に面会を許されることになる。 警告：彼にナイフを渡してはいけない。 原題：THE PROFESSOR AND THE MADMAN　この「and」は奥が深い。ひとりの人間のなかに博士と狂人のふたりが棲んでいるのだ。

30	原　克	流線形シンドローム ー速度と身体の大衆文化史	2008		紀伊国屋書店	2400	348	978-4314010351	流線形はカッコイイ！　そんな美意識が1930年代のアメリカで「発明」されてこのかた、みんなが躍起になって流線形化にいそしんだ。メインターゲットは、クルマのボディと女性の体のライン。 文化的記号性がどうの、なんていうコムズカシイ議論はちょっと脇へ置いて、カタログのようにぱらぱらとどうぞ。
31	ヘレン・モーガン	世界最高額の切手「ブルー・モーリシャス」を探せ! ーコレクターが追い求める「幻の切手」の数奇な運命	2007		光文社	1890	248	978-4334962012	1847年、郵便制度のごく初期に、アフリカの小さな島で作られたヴィクトリア女王の切手。たった2ペンスの、しかもとうに役目を終えた小紙片が、なにゆえコレクター界の頂点に君臨し、とてつもない経済価値を有するに至ったのか。珍しいから？　うつくしいから？　いや、それだけではないらしい。 人々が切手帳という形で〈過去〉をコレクションし始めたとき、笑えるほどに奇妙な事態が回り始める。ロマンと欲望の狭間に、かくも不可思議な文化を築き上げたオトコノコ精神に乾杯。
32	フランク・ウイン	私はフェルメール ー20世紀最大の贋作事件	2007		ランダムハウス講談社	1800	281	978-4270002346	17世紀の無名画家の絵を安く買ってくる→石鹸と水と軽石でていねいに元絵の絵の具を融かして除去→そのキャンバスの上に17世紀当時と同じ絵の具で新たに描く→特製の窯に入れて焼き、表面に亀裂を発生させる。 ほぼ、こんな工程で、ニセモノの名画ができあがってゆく。それに託した制作者の暗い情念。そして、はからずもナチスがからむことで、「これはニセモノなのだ」と制作者自ら証明してみせなければならなくなった稀有な巡り合わせ。 偉ぶった美術評論家を巧みに罠に誘い込んでゆくプロセスが痛快で、読み進むうちに贋作者メーヘレンの野望にどんどん肩入れしてしまう。ちょうど怪盗ルパンを応援したくなるように。 原題：I was Vermeer
33	ヨアヒム・クルツ	ロスチャイルド家と最高のワイン ―名門金融一族の権力、富、歴史	2007		日本経済新聞出版社	1800	318	978-4532352875	華麗なるユダヤの大富豪一族の軌跡として読んでもよいけれど、232ページから登場する後半の主人公フィリップ・ド・ロスチャイルドのジェット・コースター人生にほれぼれ。 どん底も頂点も味わい尽くした男。これぞ20世紀最高の貴族と言うべきか。 ブルー・モーリシャス(切手)、フェルメール(絵画)、そして本書のワインとつなげて読むと、モノの値段って何？　という思いにも誘われる。
34	ヨアヒム・フェスト	ヒトラー 最後の12日間	2005		岩波書店	1900	242	978-4000019347	史実を掘り起こした長めの章とそれを考察した短い章を交互に配置して、とある巨大な世界の崩壊の原因へと降りてゆく。ヒトラー＝大悪人と単純に塗り潰して満足する歴史観が、60年を経て、ようやく超えられようとしている。
35	ロバート・カーソン	シャドウ・ダイバー	2005		早川書房	2200	495	978-4152086488	潜る。不安定な装具に身を預け、おのれの体力と判断力と強運だけを信じて、ひたすら潜る。そうやって深海のUボートの謎を解き明かしてみせた男たち。

36	ダニエルT. マックス	眠れない一族 ー食人の痕跡と殺人 タンパクの謎	2007		紀伊国屋書店	2400	322	978- 4314010344	致死性家族性不眠症。時限スイッチが入って体内の殺人タンパクが暴れ始めると眠れなくなって悲惨な死に至る。ロザリオの祈りにすがるしかなかったイタリアの名家の壮絶な宿命をひもときつつ、狂牛病へと説き及ぶ。 たくさんの人がこの病に関心を持ってくれないと、巨費を投じての新薬開発が進まない。ひそやかな弔いを捨てて、PR戦術に転じたイタリアの一族の行動が何ともせつない。病気は、今や見世物なのだ。
37	高木徹	戦争広告代理店	2002		講談社	619	405	978- 4062750961	世論は善悪をハッキリ決めたがる。バルカンの小国ボスニアは、アメリカの広告代理店の力を借りて、敵ユーゴスラビアを悪役に仕立てることに成功する。ほんとうの悪者はいったい誰？
38	マイク・ デイヴィス	自動車爆弾の歴史	2007		河出書房新社	2600	292	978- 4309242732	どのページからも硝煙の臭いがする。パレスチナはもとより、アイルランド・スペイン・キプロス・インドネシア・コロンビア。世界は至るところ、すさまじき憎悪に満ちている。自動車爆弾というとてもコアなターゲットを扱いつつも、惨劇の歴史はそのまま、ここ50年の紛争の歴史として読めるしくみ。 少し気取った文体と、どっさり出てくる固有名詞にひるまず読み進めてゆけば、目の前に地獄の釜の蓋が開く。
39	松本仁一	カラシニコフ	2004		朝日新聞社	1400	257	978- 4022579294	今、アフリカはどうなっているのか。子供でも扱える銃の普及は、崩壊した社会の暴力を加速する。「植民地のほうがましだった」
40	藤原章生	絵はがきにされた少年	2005		集英社	1600	229	978- 4087813388	1葉の写真で分かったつもりになってはいけない。「ハゲワシと少女」の裏側の物語をこうやって教えてもらえれば、確かにそう。けれど、世界は説明なしの写真であふれている。 せめて、簡単に分かったつもりにならないことで、しっかり現実を見据えよう。そんな気概で著者はアフリカの現実を歩く。
41	ジェームズ・R・ チャイルズ	最悪の事故が おこるまで人は 何をしていたのか	2006		草思社	2300	420	978- 4794215383	圧力逃し弁だ！　最後に気づいた男がスリーマイル島の原発事故を救った。計器の針を揺らすわずかな徴候から真相を探りあてようとする努力は、歴史家の営みにも似て。
42	ジム・ワイヤー ＆ ケヴィン・フリン	9.11 生死を分けた102分	2005		文藝春秋	1800	358	978- 4163674308	いったい何が起きたのか。誰にも分からない大混乱のなか、100階建てのツインタワーから逃げるための15000人の戦いが始まる。数百名の証言で織り上げた、あの瞬間。
43	アスネ・ セイエルスタッド	カブールの本屋 ーアフガニスタンのある家族の物語	2005		イースト・プレス	1800	356	978- 4872575781	アフガニスタンの首都カブール。当地ではそこそこ裕福な部類に属する一家庭に女性ジャーナリストが寄寓し、ブルカをかぶった女たちと寝食をともにして、ゆっくりゆっくり気持ちを聞き出した。このまことに稀有な取材を、ていねいに再構成することで、男たちの自負、女たちの忍耐のそれぞれが徐々に焦点を結んでくる。タリバン以後の、この社会における暮らしのありよう、幸せのかたちは？ 13人の家族の世話を一手に引き受け、土埃舞う部屋で黙々とタマネギ炒めをつくる黒い瞳のライラの運命にどうか耳を傾けてください。

44	石井光太	物乞う仏陀	2005		文藝春秋	1650	251	978-4163677408	石井光太の視線は、正視するに耐えないものも鋭くえぐってゆく。25歳、6000ドルを握りしめて成田から出発して、カンボジア・タイ・ベトナム・インド……。 救いのない現実の連なりに暗然。
45	石井光太	神の棄てた裸体 ーイスラームの夜を歩く	2007		新潮社	1500	295	978-4103054511	印税すべてを握りしめ、彼は再び旅へ出る。28歳になっていた。 またしても、凄まじい現場へ、強靭な精神力で立ち向かってゆく。
46	クリス・バラード	バタフライハンター ー10のとても奇妙で素敵な仕事の物語	2007		日経BP社	1800	332	978-4822246105	たとえば「スカイウォーカー」。スパイダーマンのように自在に高所での作業を行う元海兵隊員は、外壁コンサルタント。強靭な身体能力と、悲惨な生活を乗り越えてきた精神によって、超高層ビルの清掃や修理をおもしろがってやっている。 たとえば「筆跡探偵」。筆跡というより、むしろ「脳跡」。心に直結するのぞき穴を調べ、裁判の証拠資料にしたり、性格や人物の分析をしたり。 どれも親が聞いたら反対するだろう仕事ばかり。でも、ほんとに楽しそう。 自分の天職って何だろう？　それを探すヒントにどうぞ。
47	海野一隆	地図に見る日本	1999		大修館書店	2600	194	978-4469232042	半分だけだったり逆立ちしてたり、奇想天外な日本認識コレクション。すべて見開きの右が地図、左がコンパクトな説明なので、展覧会気分で見て回れる。なぜか近代になって正確になるほど、つまらなく見えてくるから不思議。
48	鬼頭 宏	人口から読む日本の歴史	1983		講談社学術文庫	960	283	978-4061594302	３０００万人、平均余命３０年、それが江戸。都市は巨大な人口調節機構。吸収しては殺すアリジゴク。たんたんとした描写が恐ろしい。
49	宮本常一	塩の道	1979	1985	講談社学術文庫	800	192	978-4061586772	問：あなたは海辺の民。たくさんできた塩を山の民のもとへと運んで売ってこようと思います。さて、牛と馬、どちらで運びますか？ 答：牛 理由：本書　56-59ページ 炉端の古老の昔語りを聞くように、古い日本の生活の断片がゆかしく蘇ってくる。
50	網野善彦	日本の歴史を よみなおす	1991	2005	ちくま学芸文庫	1200	398	978-4480089298	日本史学界を襲った激震いまだ去らず。農民中心史観を廃し、「非農業民」という視点を核にすえて、中世史を中心に日本史全体の読み方をガラガラとひっくりかえしてしまった巨大な震源地のエッセンス。
51	長野仁・東昇	戦国時代の ハラノムシ	2007		国書刊行会	1000	97	978-4336048462	戦国時代、病気は虫の形をしていた。鍼（はり）という武器をかざして奇天烈なモンスターに立ち向かった人々の心意気を感じつつ、とりあえず愛敬たっぷりのこいつらに爆笑。
52	太田尚樹	ヨーロッパに消えた サムライたち	1999	2007	ちくま文庫	780	316	978-4480422958	昔、支倉常長という侍がいた。仙台からメキシコを経てスペインへ。主君に命じられて大航海を敢行した。苦労は実らなかった。しかしスペインには一行の子孫と信ずるハポン姓の人びとが今も暮らす。
53	タイモン・ スクリーチ	江戸の大普請 ー徳川都市計画の詩学	2007		講談社	1800	263	978-4062143806	イギリス人が花のお江戸を研究して、そのユニークな視点に乗って、いろんな珍しいところへ連れて行ってくれる。品川の大仏、吉原通いの水の道。 しかし風水に毒されすぎていないかなあ、など、ちょっとイジワルだけれど、ほんとかな？　と疑惑のまなざしで読むとおもしろい。

54	千葉正樹	江戸城が消えていく	2007		吉川弘文館	1800	252	978-4642056397	「絵」と「図」というキーワードで江戸の切絵図＆名所図会の変化を追うと……ふたつの変化が一致していないところから分析が深まる。
55	山本博文	江戸お留守居役の日記 -寛永期の萩藩邸	1991	2003	講談社学術文庫	1150	336	978-4061596207	毛利家の江戸駐在外交官の日々の活動。 さすが大藩の渉外の名人。如才なくスマートに、つぎつぎ起きる問題を穏やかに収めてゆく。目の前の幕府、国元の藩主、あちらもこちらも立てなければならない苦境に、がんばれ彦さん、と声をかけたくなる。 それにしても、まだ殺伐としていたはずの江戸の初期に、こんなに紛争解決がじょうずだったのに、どうして幕末には、あんなに藩を上げて尊王攘夷で燃えたぎってしまったのでしょうね。制度疲労ってヤツ？？
56	神坂次郎	元禄御畳奉行の日記 -尾張藩士の見た浮世	1984		中公新書	660		978-4121007407	武士ってこんなにヒマだったんだ！　と世の中を驚愕させた24年前のベストセラー。 ヒマだから、あっちこっちで小さなワルさを致します。飲酒に刃傷、はたまた人妻のつまみぐい。主人公の文左衛門さんは心中マニアだったんですって。
57	大森映子	お家相続 -大名家の苦闘	2004		角川選書	1400		978-4047033689	きちんきちんと男子に恵まれるはずもないのに、制度は直系男子の相続が大前提。 さて、この矛盾をどうする？　江戸時代のお殿様たちは、制度を変えるのではなく、タテマエとしての制度はしっかり維持しつつ、その裏側に、いろんな珍妙な切り抜け法を編み出した。年齢詐称に系図改竄、死亡日操作に替え玉提出。 そこまでしてタテマエを守り抜いた三百年であったのだ。カチンコチンの組織が窮屈になるとハンマーでぶっ壊して次を作ろうとするヨーロッパとは異なった日本らしさが見えてくる。
58	三浦宏	桶屋一代 江戸を復元する	2002		筑摩書房	1900	207	978-4480816214	ミニチュアで細かく細かく復元された江戸の町。お風呂屋さんに屋台に木戸番。作り手さん自身がその暮らし方を案内してくれる贅沢三昧。
59	金森敦子	〝きよのさん〟と歩く 江戸六百里	2006		バジリコ 株式会社	1800	338	978-4862380241	きよのさん無敵。大金持ちで太っ腹。ご一緒に日光･江戸、そして京都をめぐる贅沢三昧の旅にどうぞ。
60	磯田道史	武士の家計簿	2003		新潮新書	680	203	978-4106100055	埃まみれの古文書から微細にあぶり出される武士家族の収入と支出。維新を乗り切ったつましい暮らし。
61	大岡敏昭	幕末下級武士の絵日記	2007		相模書房	1400	189	978-4782407035	34歳、独身、ヒキコモリ。なのに、なんと楽しそうな日々の語らい。 本を読んでは酒を呑み、花御堂をつくっては酒を呑み、いつも家族や友人に囲まれて。 ほのぼのテイストの絵日記が、いちどだけ突如、荒れたタッチに変わる。まるで、日々やりすごしていた心の深淵がこの夜だけはぽっかり口を開けたかのように。184ページ必見！

62	野口武彦	大江戸曲者列伝 ー太平の巻	2006		新潮新書	720	255	978-4106101526	クセモノだ、出会え出会え～！ 「わらわへの直答はならぬ」と御奉行様にそっぽを向いて御白洲に座る自称日野家のお姫さま、天狗に乗って幽界へ行ってきたよと大得意で語る寅吉少年――泰平の世を思うがまま破天荒に生き抜いた、おもしろおかしい面々。 さてあなたは、どなたとお友達になりたい/なりたくないでしょうか？
63	野口武彦	幕末バトル・ロワイヤル ー井伊直弼の首	2008		新潮新書	720	251	978-4106102523	幕末という天地がひっくり返る大騒動の中で、大まじめに、あるいは、あたふたと、はたまた、ちゃっかりと、いろんなふうに生き抜いていった人びとをくるりくるりと巡りつつ、焦点は大老のお首へ。つまみぐいして良し、通読して良し、のすぐれもの。 人だけでなく、開国することでてんやわんやとなった経済のお話も、ちょこちょこ顔を出してくれる。歴史好きの上司やお得意さんに、あいづち打つための予備知識ゲットにも好適。
64	武内孝夫	こんにゃくの中の日本史	2006		講談社 現代新書	700	199	978-4061498334	なぜに、こんにゃく!?　これがなかなかに侮りがたい。粉にして練って固めて……めちゃめちゃ手間のかかる、こんなミョーなものをなぜ日本人は食べようと思ったのか。幕末の常陸の国から出発したこんにゃく作りが、戦後、群馬県で大繁盛することとなった裏には、東京という都市の復興計画があった、など「へぇ～」がつぎつぎ、しらたきの如くたぐり寄せられる。 作柄が不安定で、かつ「荒粉（あらこ）」という保存性のある形態に加工するため、生産者が投機に走り「こんにゃくはおもしれえ」となってこんにゃく産業が活性化したとか。ふうん。経済学の生きた実践例としても、しっかり読める。
65	イザベラ・バード	日本奥地紀行		2000	平凡社ライブラリー	1500	298	978-4582763294	明治の日本を訪れた欧米からの訪問者のなかで、観察眼の鋭さも記した情報の量も、紛れもなくダントツトップの英国レディ。 初来日時に47歳。従者ひとりを連れただけで、馬に乗ってとことことことこ、日光・新潟・青森から果ては北海道のアイヌまで。どこもかしこも好奇心たっぷりに覗き込んで、しっかり記録やスケッチを残してくれたので、今や１３０年前の日本の「田舎」を知るための大恩人です。 とても分厚いので、つまみぐいでどうぞ。
66	ハーバード・G・ポンティング	英国人写真家の 見た明治日本	1988	2005	講談社学術文庫	1100	312	978-4061597105	異文化の眼だから、そして写真家の眼だから、１００年前の日本の姿をありありと映し出す。そのあたたかな視線がフジヤマのような「風景」だけでなく、ゲイシャのような「人」にまでしっかり届いているのがうれしい。
67	藤森照信	明治の東京計画	1982	2004	岩波現代文庫	1200	382	978-4006001339	「このまま崩れてしまうのだろうか」が冒頭のじつに印象深い一行。 御一新で雑草だらけの田舎に帰するはずだった江戸を煉瓦の街へ、さらに「帝都」へと転生させた先駆者たち。
68-1	今和次郎	新版大東京案内　上		2001	ちくま学芸文庫	1000	319	978-4480086716	考現学というひとつの学問をひとりで立てちゃったスゴい人がスゴい視線で昭和４年の東京をくまなく案内しつくす。フィールドワークのお手本満載。
68-2	今和次郎	新版大東京案内　下		2001	ちくま学芸文庫	1200	359	978-4480086723	―

69	根本圭助　編	小松崎茂 昭和の東京	2005		ちくま文庫	1000	205	978-4480420992	看板好きだったんですね。街並みを写しつつ、つい看板に目が行ったのは同業者意識か？　ていねいなデッサンに導かれての浅草や銀座のレトロ散歩。全編ほとんど絵。
70	淵田 美津雄	真珠湾攻撃総隊長の回想 淵田美津雄自叙伝	2007		講談社	1995	379	978-4062144025	総隊長として、あの真珠湾上空に3時間もとどまった男。それだけでもすごいのに、ミッドウェイ、そしてヒロシマと歴史の重要場面に、ことごとく居合わせ、その回想がナマの激しい言葉で綴られる。 どのページを開いても、そこからぐいと、フチダ節に引きずり込まれるはず。
71	三島靖	木村伊兵衛と 土門拳	1995	2004	平凡社 ライブラリー	1400	323	978-4582764888	ふたり並べてみたのがいい。ひとりだったら神様のように平伏して拝むしかないけれど、超一流の、でも違うもの、時として対立すらしたものを右と左に並べて見比べることで、写真にこもっている魂の読み解き方が、少し分かってくる。
72	林　望	ついこの間あった昔	2007		弘文堂	1500	240	978-4335800559	和服のおばあちゃんが茶の間で（！）新品の洗濯機のローラーを回して洗濯物をしぼっている。手前には夕餉のしたく。そんなレトロ写真に、そう言えば夏休みに洗濯の手伝いで衣類を「のしいか」にするのは、けっこう楽しかったっけ、と著者自身の思い出を重ねる。 ありきたりの写真解説ではなく、個人の記憶と重ね合わせることで、昭和の内ぶところに、より深く抱かれるのが、ここちよい。
73	野村進	千年、働いてきました ―老舗企業大国ニッポン	2006		角川one テーマ21	705	214	978-4047100763	事例のおもしろさに、びっくりの連続。 金箔屋さんがケータイ部品つくったり、精錬業が汚染土壌処理屋さんに転身したり、お酒を造りつつアトピーの子供のためのドリンクを開発したり。 プロジェクトXのような熱血サクセス・ストーリーとは異なった、融通無碍で軽やかな現場からのメッセージ。
74	中島隆信	大相撲の経済学	2003	2008	ちくま文庫	680	237	978-4480424280	相撲協会とは、これすなわち250年も続いている格闘技ビジネスのシステムなり。 実力主義なのに年功序列。神とも崇められているはずの貴重な横綱の給料はたった282万円。年寄株に八百長と数々の特殊性に彩られたこの相撲産業を経済学の視点で分析すると、さてどうなるか。 朝青龍がどうして品格がなくても平気でいられるのか、も分かります。
75	岡田芳郎	世界一の映画館と日本一のフランス料理店を山形県酒田につくった男はなぜ忘れ去られたのか	2008		講談社	1785	262	978-4062143608	長い長いタイトルで埋め尽くされた表紙。なんとまあ、人を食った。 いえ、これはひとさまにお料理を召し上がっていただくことに生涯を賭けた男の物語。 そして、押さえどころは、これはがクセス・ストーリーではないこと。だからいっそう胸にしみる。
76	横石 知二	そうだ、葉っぱを売ろう! ー過疎の町、どん底からの再生	2007		ソフトバンク クリエイティブ	1575	199	978-4797340655	徳島県上勝町（かみかつちょう）。料理に添える葉っぱビジネスで、今やマスコミの注目の的。 どん底から試行錯誤で、ついに頂点へ。ちょっと気恥ずかしくなるくらいに、絵に描いたようなサクセス・ストーリー。
77	中村良夫	湿地転生の記 風景学の挑戦	2007		岩波書店	2500	248	978-4000234320	「都市のこの記憶喪失ぶりはほとんど狂気といえる」――現状への憤懣をぶつけつつ、おのが実践の足跡を熱く語る。風景学の先駆者にして社会工学科の大先輩の言、心して聞くべし。